

不登校対応巡回教員や校内別室を利用した不登校生徒支援について

不登校生徒の状況

対象生徒は、現在、フリースクールに平日の半分以上通っている。午後にはeスポーツ部で活動している。フリースクールに通わない日は、本校に登校し、校内別室にて、1、2時間の自学自習を行っている。フリースクールと中学校での生活を両立し、比較的、規則正しい生活を送ることができている。

具体的な取組

○不登校対応巡回教員と担任等の連携

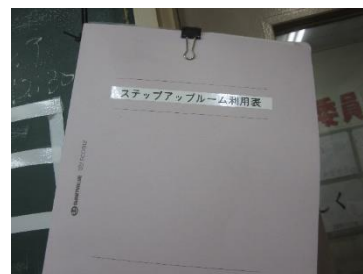
不登校対応巡回教員と担任等が生徒情報の連絡を密に行い、生徒が登校した際には、個別に学習支援や悩み相談等に



も対応していて、生徒が安心して登校できるようにしている。

○校内別室利用表の活用

エクセルによる校内別室利用表のファイルやフォルダを作成し、担任以外の教員、不登校不



登校対応巡回教員でも生徒の利用状況や近況を確認できるようにしている。

○校内別室の設置の工夫

生徒が安心して登校し、過ごすことができるように、生徒が利用する校内別室は、本校1階の昇降口から直進してすぐのところにある。また、室内はパーティションが設置され、席も数席あることから、生徒が他の生徒の目を気にせず、自由に自分の過ごしやすい場所を選択し利用できるようにしている。

○個別の学習指導

生徒が興味・関心をもっている教科については、担任のみならず、教科担当の教員も関わり、個別に対応を行っている。

例えば、理科の教員から個別に理科の実験器具についての説明を受け、生徒はとても満足したような様子だった。複数の教員で関わることにより、教員と生徒との信頼関係づくりにつながっている。

成果

担任の空き時間との調整をすることなく、生徒が希望するときいつでも中学校に登校し、校内別室を利用できるようにした。その結果、生徒のペースで自学自習に取り組むことができ、また、生徒の居場所となった。

課題

生徒の目標を共通理解する必要がある。どのようなステップで目標に向かっていくかが明確であれば、手だてがはっきりする。

不登校生徒の居場所づくりの取組について

不登校生徒の状況

対象生徒は、中学校 2 年生である。母子分離不安であり、小学校 3 年生から教室に入れなくなり、中学進学後も登校しぶりを繰り返した。4 月に、友達との関係で相手との距離感がうまく図れず、教室に入れなくなった。現在、校内別室でボランティアと様々な活動を通じて、距離感と相手の気持ちを読み取るソーシャルスキルを学び、教室復帰を目指している。

具体的な取組

○学校全体での関わりを強化

校内別室が開設されている時間に、ボランティアだけでなく、授業の空いている教員が支援した。不登校生徒の大半に人間関係づくりの苦手さがあるため、当該学年だけでなく、学校全体で不登校生徒に関わっていく体制を整えている。

○実践の成果等についての普及・啓発

- ・登録者数：1 年 5 人、2 年 9 人、3 年 6 人
- ・実施日：月～金（9 時 50 分～11 時 40 分）
- ・開室日：延べ 83 日（10 月 31 日現在）
- ・参加人数：6 人

○夏休み補充教室

- ・開室日：8 月 25 日～27 日
- ・参加人数：延べ 3 人

○広場での活動

不登校生徒の状況に応じて学習に取り組んだり、カードゲームなど様々なツールを使って、小集団で活動したりすることにより、コミュニケーション力を育てている。また、ボランティアや他学年教員も関わることで、様々な教職員に対する振る舞いや話し方を学んでいる。



○ソーシャルスキルトレーニング

週 1 回、不登校対応巡回教員や別室ボランティア、他の別室利用者を交えて、カードを使った他人の表情の読み取り、相手に伝わりやすい表現の練習をした。このことにより、自分の思い通りに他人に伝わらないことや、他人から読み取ることの難しさを学んだ。

成果

当該生徒は、ボランティアや他学年の教員など、複数の人間と関わることで、人間関係の不安が和らぎ、教室復帰に前向きに考えられるようになった。現在は、スモールステップを踏みながら教室復帰に向けた取組を行っている。

課題

登校支援として、生徒の要望を受け入れすぎて、別室が居心地の良い場所になりすぎてしまっている。

不登校の早期支援における不登校対応巡回教員による登校サポート

不登校生徒の状況

対象生徒は、中学校 1 年生の男子生徒で入学後しばらくは登校し、友達とも仲良くしている様子であった。体育委員に立候補するなど、積極的な場面も見られた。5 月中旬以降、欠席や遅刻が増えてきた。担任の聞き取りでは、友人トラブルなどはなく、登校しようとするとも体と気持ちが重くなる。着替えるのも難しくなってきたと話した。2 学期からは欠席が更に増え、合唱コンクールにも参加できなかった。

具体的な取組

○巡回教員によるプリントの配布

欠席が続いているときのプリントを担当から受け取り、自宅に届けに行く。家庭訪問時に会えば話などをして様子をうかがい、次回の予定の確認を行った。

○巡回教員による別室での指導

教室に入りにくい場合には別室で指導を行う。担任からの依頼を受け、提出物の作成や生徒が取り組みたい内容の学習サポートなどを行った。

○巡回教員による登校のサポート

登校に対して一人ではなかなか前向きになれない時に、家まで迎えに行き、一緒に登校することで、登校の抵抗感を和らげることができた。雑談などをしながらの登校で安心感を与えることができた。

○巡回教員による家庭連絡

欠席が続いた場合に様子を聞いたり、学校の取組内容（総合的な学習の時間や学校行事の伝達や事前、事後課題の取組）を確認したりした。



成果

休みがちになってしまう生徒に対してアプローチができたことで、登校につなげることができた。家庭とも今までよりも細かく連絡を取り合うことができた。学校の進捗を伝えることで、登校時の活動のイメージが付きやすく安心感をもてるようにした。

課題

学校全体の不登校生徒数が教員一人に対応できる人数ではないので、校内体制の充実が必要である。

不安感の強い生徒に対する組織的対応について

不登校生徒の状況

対象生徒は、中学校3年生である。2年生になった頃から人の目が気になり、友達からからかわれるのではないかと漠然とした不安を抱くようになった。教室（大勢のいる場所等も）に入ろうとすると腹痛や嘔吐などの身体症状が出現し、教室に入ることができなくなった。

具体的な取組

○安心できる校内別室で居場所づくり
別室は、少人数（5～10人）の環境であるため、ゆっくり他者と関わりができる。当該生徒は、3年生らしく下級生へも優しく接している。巡回教員・支援員は他の生徒とのバランスを見ながらコミュニケーションの様子を見守るようにしている。また、生徒の頑張りや取組に対して承認する声かけを積極的に行っている。

○校内別室での学習支援・担任と連携した進路指導

校内別室にはほぼ毎日登校し、自分のペースで学習に取り組み、巡回教員や支援員が個別の学習支援を行っている。進路に対する不安には、担任と連携の下、他の3年生も交えて、巡回教員がチャレンジスクールや通信制高校について説明し、生徒の疑問に答えた。



○魅力ある学校づくりの推進

巡回教員は、不登校に対する知識・理解向上のための教員向け校内研修を行った。また、教員の授業観察を行い、個々の教員が授業の中で実践している効果的な指導を全教員にフィードバックし共有している。

○校内委員会の活用

刻々と変化する対象生徒の状況を、関係教職員で情報共有し、支援を進めていった。当該生徒は保護者と共にSCと面談し、医療につながることができた。

成果

校内別室という安心できる居場所に登校し、継続して学習に取り組むとともに、小集団での人間関係を構築することができた。進路に対しても教職員の様々な支援を受けながら、希望をもって進学先を自己決定することができた。

課題

校内別室利用生徒が増えているため、別室の円滑な運営と人員配置、場所の確保、支援員配置などが課題である。

自分のペースで取り組んで、安心できる場所の設置について

不登校生徒の状況

対象生徒は、小学校 3 年生の 7 月から不登校であったが、中学入学後の 5 月から校内別室に登校できている。登校日時やタブレット学習など自分のペースで取り組んでいる。不登校対応巡回教員に数学を教えてもらい、学習意欲が見られるようになった。また、カードゲームを通して他の生徒ともコミュニケーションを図れるようになった。

具体的な取組

○校内別室利用に伴う柔軟な対応

小学校 3 年生から不登校が継続していたため、当初は私服による週 1 回の通室から始め、制服の準備ができてからは制服による通室を実施して、少しずつ学校に慣れていけるよう支援した。現在、開室日はほとんど登校している。

○端末を活用したドリルソフトを実践

生徒が自身で取り組めるよう学習の進め方やドリルソフトの効率の良い使い方を指導した。取り組む教科は、自ら選択し、不登校対応巡回教員が個別支援を行った。



○小集団活動の時間設定

校内別室を利用する複数の生徒と共に風船バレーやトランプ等のレクリエーションを実施した。他の生徒との関わりがもてる内容を意図的に設定した。このことにより、校外学習や合唱コンクール等にも参加することができた。

○担任との対話のための時間確保

校内別室を利用している時間に担任の先生との対話の時間を確保している。学習支援や今後の進路についてなど幅広い話題で生徒の登校意欲や学習意欲の向上を図った。担任の努力もあり、良好な関係を築くことができている。

成果

11 月末現在、開室日は全て登校することができ、学校復帰につなげることができた。他者との関わりに苦手意識があったが、現在は校内別室利用生徒だけでなく、特別支援学級の生徒ともコミュニケーションを取りながら活動したり、特定の教科の授業に参加したりできるようになった。

課題

学習の遅れに対する不安感を強くもっているため、継続した学習支援が必要である。